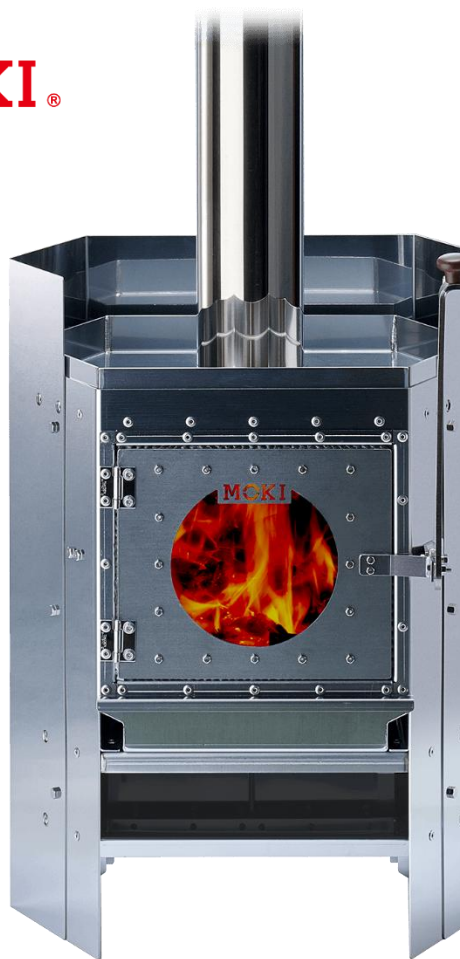




燃焼哲学®



サウナストーブ

MS 30

MS 30 ケージタイプ

取扱説明書



環境先端技術

株式会社 **モト製作所**

製品の仕様及び取扱説明書の内容は、
改善のため告知なく変更する場合があります。
ご了承下さい。

はじめに

この度は、MOKI 薪ストーブをお買い上げ頂き誠にありがとうございます。

快適で安全にお使い頂く為に、ご使用前にこの取扱説明書をかならずお読み下さい。

また、お読みになった後もお使いになる方がいつでもご覧頂ける場所に大切に保管して下さい。

目次

・ はじめに、目次	1
1. 安全上のご注意	2
2. 各部名称	3
3. 使用方法	4
4. 保守	8
5. 各部品交換手順	9
6. Q & A	11
7. サウナ仕様について	12

※保証書は梱包箱に同梱しております。
大切に保管して下さい。

1. 安全上のご注意

※ご使用前のお願い

本製品にはステンレス（未塗装）を使用しています。

初めて火を入れた際は燃焼炉周辺に茶色い焼き色が付きますが、不具合ではございません。

掲載されている写真は溶接による焼け跡を落としてあります。実際の製品は焼け跡の処理は致しません、不具合ではございません。

また、ステンレスには錆びにくい特性がありますが、絶対に錆びないわけではありません。

多湿の場所に長期間置いたり、錆び易いものが本製品に接していると錆びる可能性が有ります。

⚠ 警告 死亡や負傷を負う恐れが有る内容です。

- ・ 本体及び煙突の設置は、建築基準法及び消防法に従い安全に設置して下さい。
- ・ 異常、故障時は直ちに使用を中止して下さい。
特に、本体及び煙突から炎が出たり破損がみられる場合。
- ・ 本体を可燃性の床へ直接設置することはできません。不燃材の炉台をご使用ください。
（炉台は、当社でオプション品としてご用意がございますのでお問合せ下さい。）
- ・ 室内では本体と可燃物は 45 センチ以上離し、必要に応じて遮熱板を入れて下さい。
遮熱板と可燃物は 3 センチ以上離して下さい。
- ・ 年に 1 回以上 煙突掃除と点検を行って下さい。
煙突内に 5 ミリの煤やタールが付着した場合は、必ず煙突掃除を行って下さい。
そのまま放置しますと煙道火災を引き起こす可能性が有ります。
- ・ 万一煙道火災が発生した場合は、身の安全を確保し速やかに消防署に通報して下さい。
- ・ 灰の処理は火の気がない灰を金属容器に 3 日以上入れ、冷めてから処分して下さい。
- ・ 着火および燃料として、ガソリン・灯油・ガス・アルコール等を絶対に使用しないで下さい。
- ・ 本体の近くに、ガソリン・灯油・アルコール・ライターやスプレー缶などを絶対に置かないで下さい。爆発する恐れが有ります。
- ・ 本体を不安定な場所に設置しないで下さい。
- ・ 本体及び煙突に過度な力を与えないで下さい。
- ・ お子様やペットを、ストーブに近づけないで下さい。火傷の危険が有ります。
- ・ 本体を無断で改造しないで下さい。

⚠ 注意 傷害を負う事や、財産の損害が発生する恐れが有る内容です。

- ・ 薪の投入時は耐火グローブ等を使用し、火傷に注意して下さい。
- ・ 乾燥してない薪を使用しないで下さい。煤やタールが煙突に付着します。
- ・ ガラスを叩いたり、過度な力を与えないで下さい。破損の恐れが有ります。

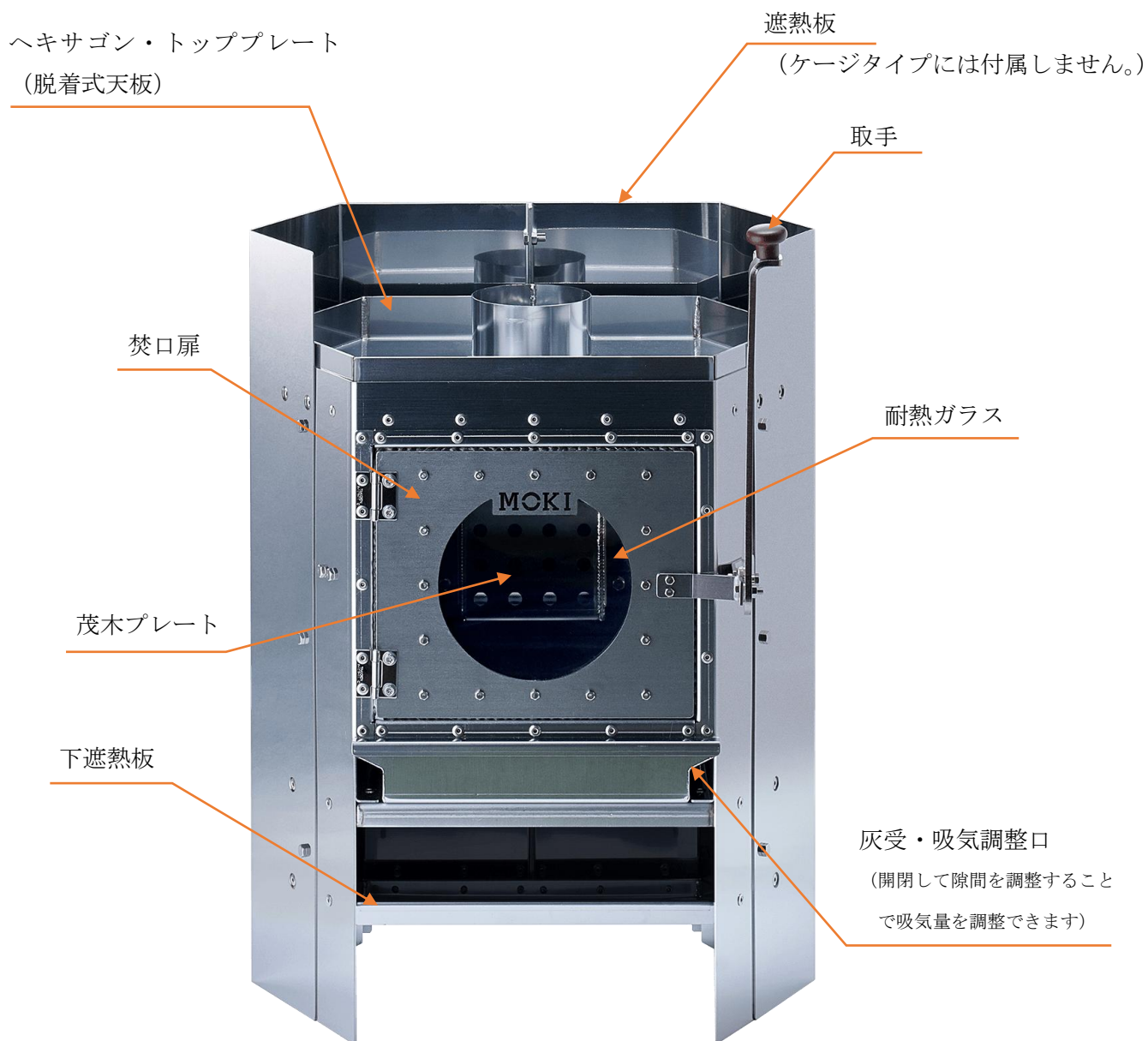
※ 煙突または本体が赤くなるまで燃やさないで下さい。変形と酸化の恐れが有ります。



2. 各部名称

焚き付け参考動画はこちら→

<https://youtu.be/BTM48FlfgxQ>



仕 様

型 式	MS30	MS30 ケージタイプ
寸 法	L370×W490×H700 mm	L465×W626×H700 mm
重 量	30 kg	35kg
最大薪長さ	30 cm	
煙 突 径	φ 106	

3. 使用方法

焚き付け参考動画はこちら→



<https://youtu.be/1i1TqXcF17C0>

⚠ 注意 傷害を負う事や、財産の損害が発生する恐れが有る内容です。

- ※ 最初の火入れは、徐々に行ってください。
- ※ 焚口扉を全開、または半開で長時間燃やさないで下さい。
ストーブ本体が過度に加熱され赤くなり危険です。
- ※ 薪は、2～3 本入れて下さい。(目安：60 分毎)
1 本では、燃烧温度が上がらず煙発生の原因となります。
- ※ 薪を入れる際は、火傷にご注意下さい。
耐火グローブ等をご使用下さい。
- ※ 焚口扉を勢いよく開けると炎が出やすくなります。ゆっくりと開けて下さい。
- ※ 灰受での吸気量調整時、耐火グローブ等を使用し、火傷に注意して下さい。

3-1, 準備

- ※ 6～12 ヶ月乾燥させた薪を使用して下さい。(水分 20 パーセント以下)

3-2, 着火・燃烧

- ① 煙突にダンパーが有る場合は全開にします。
- ② 取手を廻し焚口扉を開けます。
- ③ 灰受にダンボールもしくは前回の灰を敷きます。
(※着火性の向上と灰受保護のため)
- ④ 灰受保護板 (2 枚) のシール貼付面を下向きにして灰受内に設置して下さい。
- ⑤ 焚付け用の細めの薪を 5～6 本位入れます。
- ⑥ ボール紙または厚紙を 20 cm 位に切り 5～6 枚と木くずを薪の上に載せます。
- ⑦ ライターまたはマッチで焚口と茂木プレートを中心より奥寄りのボール紙・厚紙に着火します。
または、焚付け用の薪に直接ガスバーナー等で着火します。

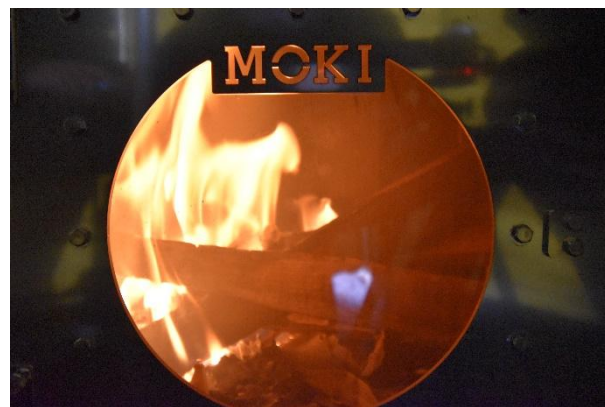


ダンボール 焚付け用の細めの薪



灰受保護板
(シール面下向き)

- ⑧ 焚付け用の薪が燃え出し、炎が上がり始めたら焚口扉を閉めて下さい。
- ⑨ 焚付け用の薪の炎が上がりましたら、再度細めの薪を2、3本投入して下さい。
- ⑩ 炎が安定したら太い薪を入れ、焚口を閉めます。



※焚口付近（手前側）から着火すると逆流の原因になります。必ず炉内奥側から着火をお願い致します。また、一度に大量の薪を投入すると不完全燃焼の原因になります。

灰受は吸気調整も兼ねています。

（灰受を閉状態にしても完全には吸気を止められません。）



【閉】状態



【開】状態

3-3、消火

⚠ 注意 傷害を負う事や、財産の損害が発生する恐れが有る内容です。

※ ストープに水をかけて火を消すことは、本体の変形や故障の原因になりますので絶対にしないで下さい。

・薪ストーブは、急な消火は出来ません。

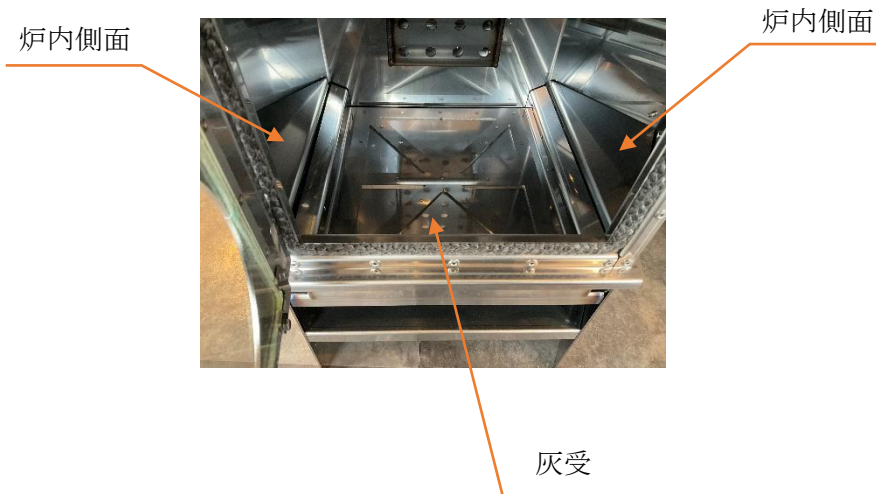
消火の2～3時間前には、薪の投入を止め燃え尽きるようにして下さい。

◎ 緊急に消火が必要な場合

焚口扉から薪を取り出し、予め用意した金属製容器内で水をかけ消火して下さい。

3-4, 灰の処理

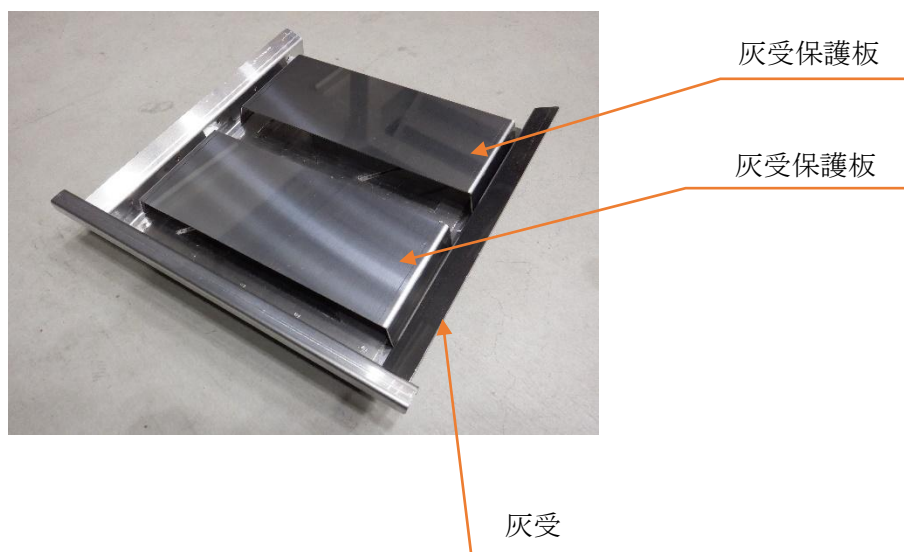
- ・ 本体が完全に冷えているのを確認して、灰受を手前に引き出してください。
- ・ 炉内の側面に灰が溜まりやすいので灰出しのタイミングで取り除いて下さい。
- ・ 灰は、金属容器に入れ完全に冷えていることを確認後処分して下さい。
(灰は有益な加里肥料になります。ご活用下さい。)



3-5, 灰受保護板について

- ・ 本部品は灰受の熱による変形を少しでも緩和するための消耗部品です。
(灰受の変形を完全に防ぐことが出来る部品ではございません)

※使用方法については取扱説明書 4 ページ「3-2, 着火・燃焼」の項目を参照下さい。

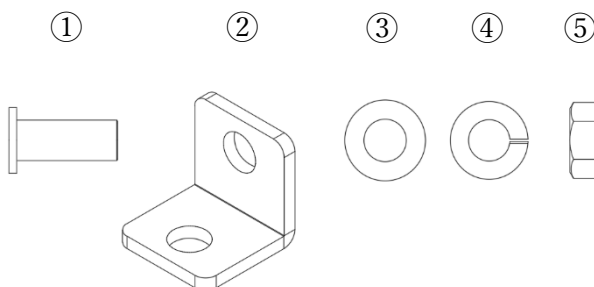


3-6、床固定用のL金具について

- ・本製品の転倒リスクを低減するため、L金具を付属しています。
- 安全のため、床へ固定して使用することを推奨します。

<付属品>

- ① M8 ボルト×2 個
- ② L 金具×2 個
- ③ 平ワッシャ×2 個
- ④ スプリングワッシャ×2 個
- ⑤ M8 ナット×2 個



<取付け方法>

- ① 取り付け位置を確認します。

スタンダードタイプは遮熱板、ケージタイプは本体の $\phi 9$ 穴（両サイド合わせて2か所）へ取り付けます。

- ② L金具を取り付けます。

付属のL金具2個を、M8 ボルト・ナット・ばね座金・平座金で固定します。
外側にボルト頭が来るように取り付けてください。

- ③ 工具を使用して確実に締め付け、ガタつきがないことを確認してください。

工具は付属していません。

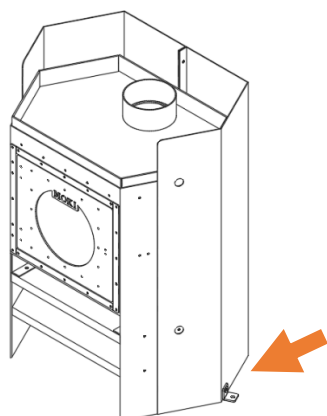
使用工具：・4mm 六角レンチ（M8 極低頭六角穴付きボルト用）

・13mm スパナまたはメガネレンチ（M8 六角ナット用）

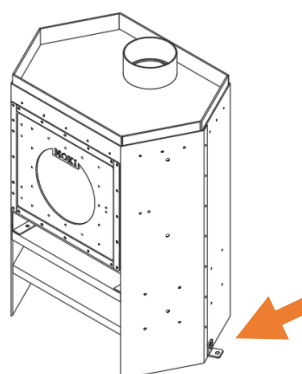
<注意事項>

- ・床へ固定する場合は、強度のある床へ確実に固定してください。
- ・床固定に使用するアンカー・ねじ等は付属していません。
設置する床の材質や構造に適したものを別途ご用意ください。（固定穴径： $\phi 9$ ）
- ・本金具は製品の転倒リスクを低減するための補助部品です。
転倒を完全に防止するものではありません。
- ・旧タイプのMS30 専用炉台には床固定用の穴はありません。
床固定を行う場合は、ステンレス用ドリルで炉台に穴あけ加工を行ってください。

<スタンダードタイプ>



<ケージタイプ>



4. 保守

末永くご愛用いただくために必ず下記内容に従い、適切なメンテナンスを行ってください。

※ 各種点検等はストーブが冷めている状態で行ってください。

- ・ 定期的に締結ボルトに緩みが無いか確認して下さい。
- ・ ご使用後は必ず本体の炉内および煙突内部に煤が溜まっていないか確認して下さい。
- ・ 燃え残り等はブラシやウエスなどを使って除去して下さい。
- ・ 燃焼による金属の変色は不具合ではありません。磨き材等は使わないで下さい。
- ・ ストーブ本体や煙突に穴などの破損が無いか定期的に点検し、破損している場合はご使用をお控え下さい。
- ・ 天板は一番高温になる部分かつ、ロウリュによる水や、サウナストーンの重みにより歪みが発生します。消耗部品として定期的な交換を推奨します。



←ガスケット・ガラス

交換動画



←茂木プレート

交換動画

5. 各部品交換手順

⚠ 注意 傷害を負う事や、財産の損害が発生する恐れが有る内容です。

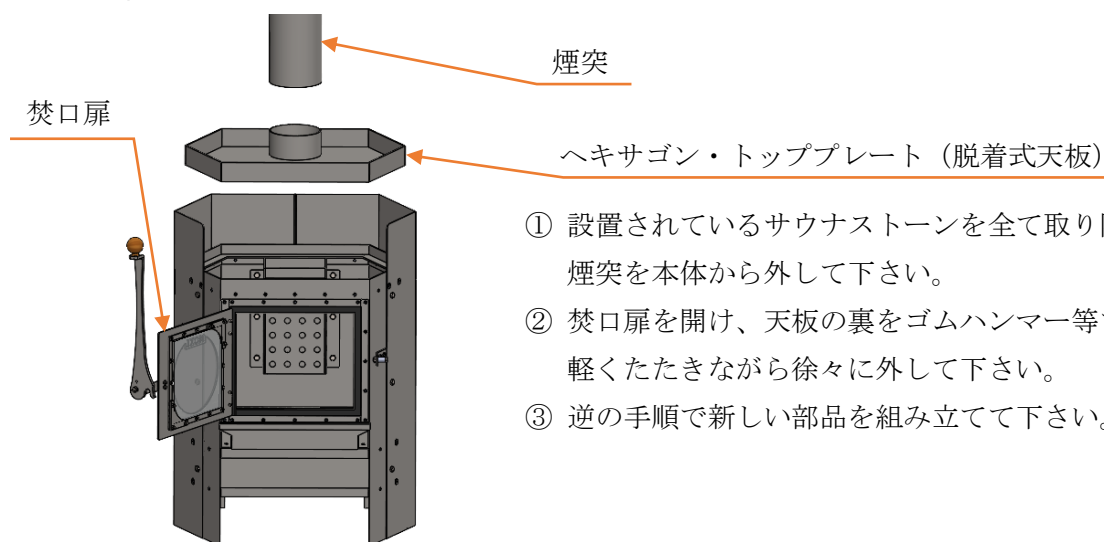
※ 作業中は手袋を着用して下さい。

※ 燃焼中には絶対に作業せず、本体が十分に冷めてから作業して下さい。

※ 部品脱着に使用する工具等は本体に付属しておりません。適正な工具を使用して下さい。

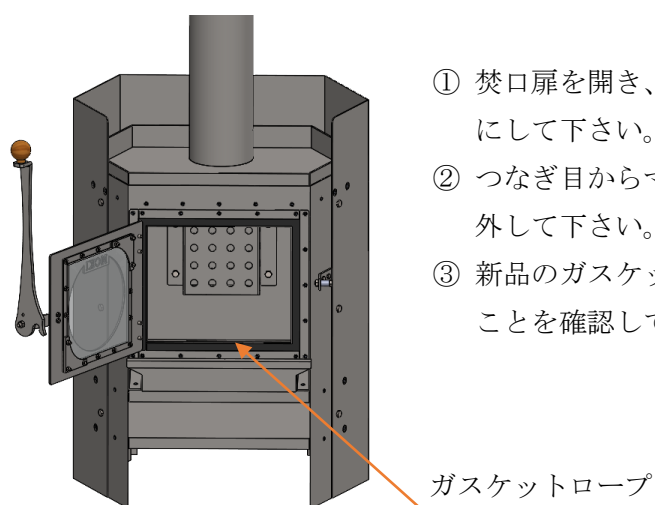
※ 必要に応じてサウナストーンを全て取り除き、落下等の危険が無いように作業して下さい。

5-1, ヘキサゴン・トッププレート（脱着式天板）



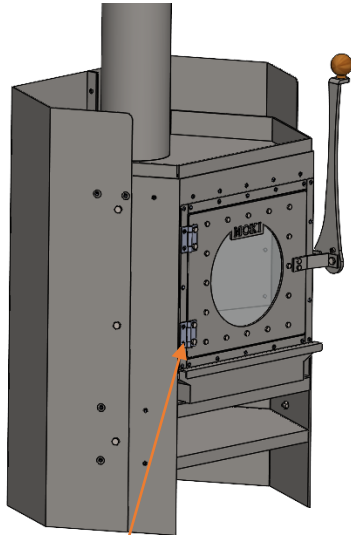
- ① 設置されているサウナストーンを全て取り除き、煙突を本体から外して下さい。
- ② 焚口扉を開け、天板の裏をゴムハンマー等で軽くたたきながら徐々に外して下さい。
- ③ 逆の手順で新しい部品を組み立てて下さい。

5-2, ガスケットロープ



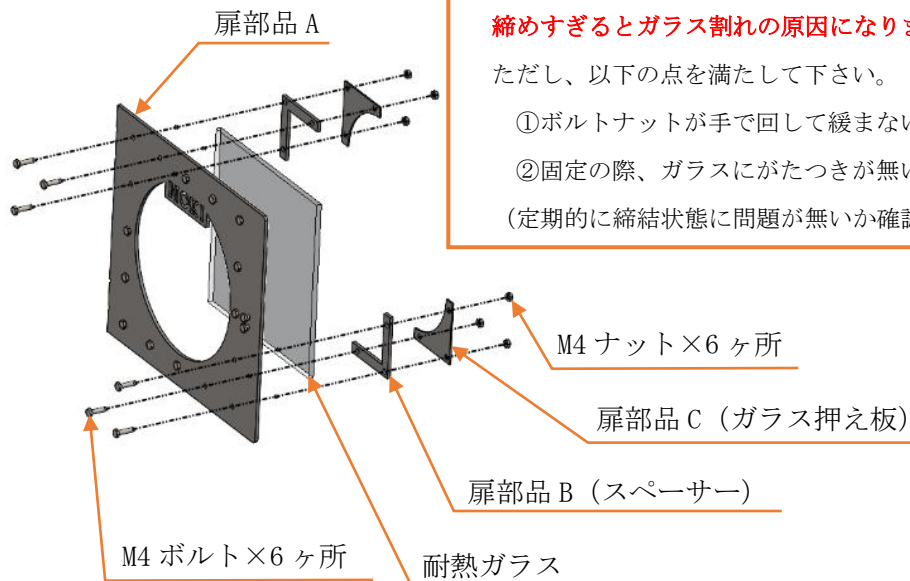
- ① 焚口扉を開き、ガスケットロープにアクセスできる状態にして下さい。
- ② つなぎ目からマイナスドライバー等を使用して本体から外して下さい。
- ③ 新品のガスケットロープを取付け、扉がしっかり閉まることを確認して下さい。

5-3, 耐熱ガラス



M5 ボルト×4 ケ所

- ① 左図の M5 ボルトを取り外し、
本体から焚口扉を取り外して下さい。
※焚口扉の落下にご注意下さい。
- ② 焚口扉裏面の M4 ボルトナットを取り外し、
耐熱ガラスを交換して下さい。
- ③ 逆の手順で扉ユニットを組み立て、本体へ
取付けて下さい。
※ガラスの取り扱いや、組み立て時の部品の順番に
ご注意下さい。



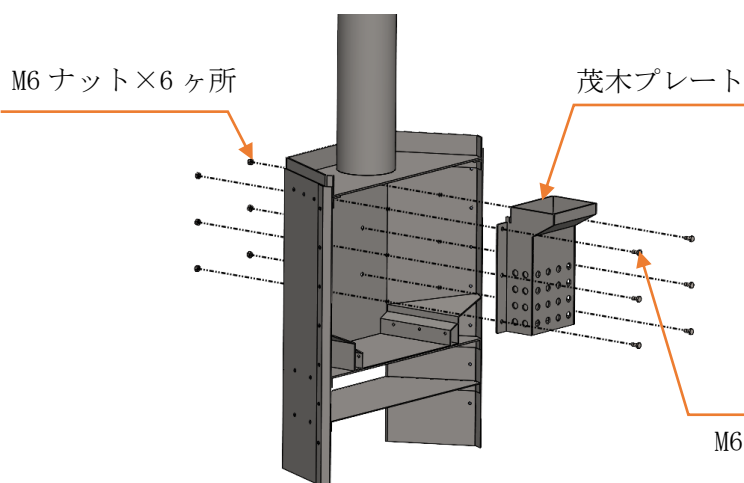
※ガラス締結用 M4 ボルトは、出来るだけ弱い力で締結して下さい。

締めすぎるとガラス割れの原因になります。

ただし、以下の点を満たして下さい。

- ① ボルトナットが手で回して緩まないこと
- ② 固定の際、ガラスにがたつきが無いこと
(定期的に締結状態に問題が無いか確認して下さい。)

5-4, 茂木プレート



- ① M6 ボルトナット 6 ケ所を取り外し、
本体から茂木プレートを取り外して下さい。
- ② 逆の手順で新しい部品を取り付けて下さい。

M6 ボルト×6 ケ所

※取り外しイメージ

6. Q & A

こんなとき		原因	対処方法
薪が燃えない		薪の乾燥が不十分	6～12 ヶ月乾燥させた薪を使用して下さい
		焚き始めから太い薪を使用	焚き付けは細い薪を使うと着火が容易です
		空気調整口が閉じている	空気調整口を開けて下さい
		煙突が煤で詰まっている	煙突の中に煤が 5 ミリ以上付着の場合は 煙突掃除をして下さい
		新聞紙で着火している	ボール紙を沢山使い着火して下さい
		横引に対し外の立上が短い	横引の長さの 1.5 倍以上必要です 状況により 2 倍以上必要な場合もあります
		薪の量が少ない	薪の量を増やし勢いよく燃やして下さい
煙が逆流する		手前で着火している	中心より奥で着火して下さい
		煙突が煤で詰まっている	煙突の中に煤が 5 ミリ以上付着の場合は 煙突掃除をして下さい
		煙突トップ付近の風の乱れ	煙突を屋根及び障害物より高くして下さい
		横引に対し外の立上が短い	横引の長さの 1.5 倍以上必要です 状況により 2 倍以上必要な場合もあります
		高気密住宅である	窓を開け空気を取込んで下さい 又は外気導入口を設置して下さい
		近くで換気扇が廻っている	換気扇を一時止めて下さい
		灰受を開けすぎている	灰受を閉めて下さい
ストーブが 熱くならない		薪の量が少ない（低温燃焼）	薪を増やして下さい
		空気調整口が閉じている	空気調整口を開けて下さい
		空気調整口の開けすぎ 熱が煙突から逃げてしまう	空気調整口を絞って下さい
ガラス付	煤で曇る	低温燃焼です（不完全燃焼）	薪の量を増やし勢い良く燃やして下さい
	磨き方	ガラスが冷えている状態の時、湿らしたウエスに灰を付け磨いて下さい	
天板・灰受・灰受保護板の変形		消耗部品ですので、定期的な交換を推奨します	

7. サウナ仕様について

⚠ 警告 死亡や負傷を負う恐れが有る内容です。

- ・ サウナ設備設置基準を参照または工事業者様にご相談の上、安全に設置して下さい。
- ・ 個人宅以外に設置する場合は、火災予防条例の規制を受ける事がありますので、所轄の消防署の指導に従って下さい。
- ・ 営業浴場に設置する場合は、所轄の保健所の指導に従って下さい。
- ・ 十分な強度を持った場所に設置して下さい。
- ・ サウナ室用温度計・湿度計・一酸化炭素警報機を設置し身体に危険が起こらないように管理して下さい。

⚠ 注意 傷害を負う事や、財産の損害が発生する恐れが有る内容です。

- ・ 「ロウリュ」で水をかける際は、火傷にご注意下さい。
ストーブ手前から奥に向かいかけますと蒸発した水蒸気で火傷をする可能性が有ります。
- ・ ガラスに直接水をかけないで下さい。破損の恐れが有ります。
- ・ 煙突に直接水をかけないで下さい。変形・破損の恐れが有ります。

入浴時のご注意

- ・ 病氣療養中や心配な点がある方は必ず医師にご相談の上、健康状態にあわせてご使用下さい。
(心筋梗塞・うっ血性心不全・急性感染症・重度の高血圧症
重度の貧血・慢性疾患・代謝性疾患・紫斑病などの出血性疾患・妊娠中・生理中など
の方は入浴を避けて下さい。)
- ・ 飲酒後・満腹時・極度の疲労時・発熱時・傷の不完全治療時・入浴中に異常を感じた時などは、健康な方でも入浴を避けて下さい。

サウナの種類

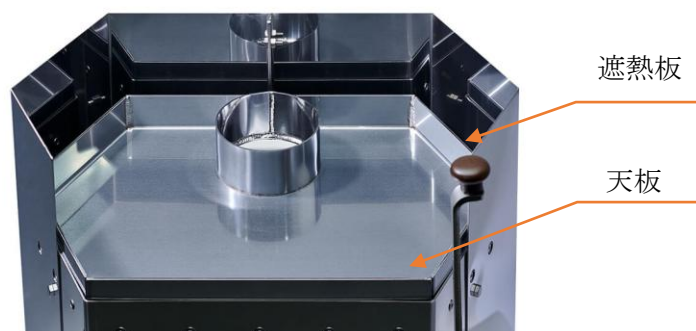
乾式サウナ（日本で一般的なサウナ）	蒸気式サウナ（フィンランド式サウナ）
温度 80～100℃ 湿度 10～15%ほど 温度が高く、湿度が低い	温度 70～80℃ 湿度 20～30%ほど 温度が低めで、湿度が高い 薪ストーブで熱した石に水をかけ、 蒸気を発生させる「ロウリュ」 「ロウリュ」によって温度と湿度を調整します。

＜サウナストーン設置＞

⚠ 注意 傷害を負う事や、財産の損害が発生する恐れが有る内容です。

- ・ 作業中は手袋を着用して下さい。
- ・ サウナストーンを入れる際は、サウナストーンの落下、崩れに十分ご注意下さい。
- ・ ストーブ燃焼中はサウナストーンに絶対触らないで下さい。火傷の恐れがあります。

・ MS30



サウナストーン（別売り）を崩れないようにバランスよく敷き詰めて下さい。

※積載重量 20kg が限度です。

（サウナストーンの形状、大きさ、積み方で変動します）

- ・ ストーブ天板部分にまんべんなく敷き詰めて下さい。
- ・ 側面、背面の遮熱板になるべく重量がかからないように載せて下さい。変形の恐れがあります。
- ・ サウナストーンが残った状態で遮熱板を外すと、サウナストーンが崩れ落ちる可能性があります大変危険です。
- ・ 遮熱板と本体のスキマは対流熱式の暖房を兼ねています。完全に塞がないようにストーンを置いて下さい。



←独自の形状により、室内に効率よく熱が回るように設計されています。
遮熱板と本体のスキマがサウナストーンで塞がらないようにして下さい。

・MS30 ケージタイプ



サウナストーン（別売り）を崩れないようにバランスよく敷き詰めて下さい。

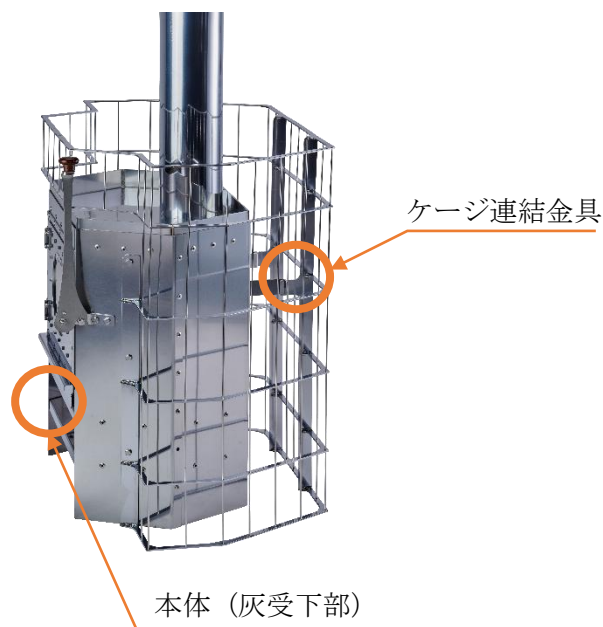
※積載重量 120kg が限度です。

（サウナストーンの形状、大きさ、積み方で変動します）

- ・ ストープ天板、ストーブ本体側面部分にまんべんなく敷き詰めて下さい。
- ・ サウナストーンが残った状態でケージを外すと、サウナストーンが崩れ落ちる可能性があります大変危険です。
- ・ ケージ最上面より上にサウナストーンがはみ出ないようにご注意ください。

- ・ 運搬の際は右の写真を参考に、
本体とケージ連結金具付近を持って下さい。

- ・ ケージ単体での販売もしております。
- ・ 「MS30」及び「MS30 ケージタイプ」の
ストーブ本体は同一品になります。



株式会社 毛子製作所

〒389-0802 長野県千曲市内川 96（国道 18 号沿）

TEL : 026-275-2116（代） FAX : 026-275-2169

HP <https://moki-ss.co.jp> E-mail moki@moki-ss.co.jp

最終更新日：2026 年 7 月 30 日